

同窓会の幹事を任された佐藤は、久しぶりに高校時代の友人に電話を入れた。

「はい、原田です」

「夜分遅く恐れ入ります。佐藤と申しますが聡子さんいらつしやいますか？」

「まだ仕事から帰ってこないんですけど・・・」

「あ、そうですね。私、聡子さんの高校時代の友人なんですけど、来月同窓会を開くことになりました、その連絡なんです」

「そうですね。それでは帰ってきましてら聡子の方からすぐお電話させます。すみませんが、お名前をもう一度お名前をお願いします」

「佐藤広美と申します」

「佐藤広美さんですね。そちらのお電話番号は、聡子は存じておりますか？」

「はい、ご存知だと思いますが一応申し上げます。三四一―四六〇三です」

「三四一―四六〇三ですね、わかりました。聡子は最近忙しいようで、帰りが遅い日が多いんです。あまり遅いようでしたら明日連絡させますね」

「すみません。あいにく明日は一日中外出してしまいますので、できれば伝言をお願いしたいのですが」

「はい、どうぞ」

「来月十三日の水曜日に、七時から渋谷にあるシャトウ・ベールというレストランで同窓会を開くことになりましたので、その出欠を来週までに知らせてほしいとお伝え下さい」

「来月十三日の七時からですね。わかりました、伝えておきます」

「よろしく願います」

数日後、原田から連絡が入った。

「はい、佐藤です」

「夜分恐れ入ります。原田と申しますが広美さんご在宅でしょうか？」

「聡子？ 久しぶり」

「本当、久しぶりね！ この前同窓会の連絡をくれたそうだけど、残念ながら十三日は出席できそうにないの。最近忙しくてなかなか定時に帰れないんだ。十三日は七時前に終わったとしても、それから渋谷まで行ったら大分遅くなるし・・・」

「もしよかったら、途中からでも出席できない？ みんな久しぶりに会えるのを楽しみにしているから」

「それじゃ・・・早く終わったら顔を出すようにしようかな。一応、お店の住所と電話番号を教えてください」

「住所は東京都渋谷区広尾三―七―一、電話番号は〇三―三六五―一―三四一、シャトウ・ベールっていうレストランなの。大通り沿いにあるから場所はすぐにわかると思うわ」

「わかった、ありがとう」

「それじゃ、当日楽しみにしてるから」

佐藤はそう言って電話を切り、まだ出欠のはっきりしない何人かに、再度確認の電話を入れた。